福岡・営開・営総発№0013-004
令和 6 年 7 月 12 日

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
（事務局：ＪＡ全農ふくれん営農総合課）
（公　印　省　略）

**営農情報４**

# 大豆の遅播き対策について

本年は６月 17 日の梅雨入り以降、断続的な降雨が続いており、平年に比べ降水量は少ないもののほ場が乾かず大豆の播種は計画通りに進んでいません。

県北部を中心に６月中旬から播種が始まったものの、７月上旬までの播種割合は12％となっています。天気予報によると７月 17 日頃までは降雨が続くと予想されており、播種が遅れることが心配されます。

播種が遅れると開花までの期間が短くなるため、生育量不足により低収となる恐れがあります。ほ場の水分が適度になったら早急に播種を開始し、７月末までの播種作業の完了に努めましょう。

## １　遅播きでの播種のポイント

●栽培暦を参考に、播種量を増やして出芽本数を確保する。
●基肥を窒素成分で２kg/10a 施用する。
●出芽時の腐敗防止のため、種子消毒を必ず実施する。

**【出芽不良で播き直しが必要な判断目安】**･･･健全な株が７割以下と見込まれる場合
・播種後の激しい降雨などにより、クラスト（土膜）ができ、出芽不良となる場合があるため、播種後１週間ごろに出芽状況を確認する。

## ２　土壌水分に応じて播種の深さを調整

土壌水分に応じて、播種深度を調整します。
●土壌水分が多い場合は、播種深度は２～３cm とし、播種後の鎮圧は行わない。
●土壌が乾燥（しばらく降雨がない天気予報）している場合は、基準よりやや深い５～６cm の播種深度とし、播種後に鎮圧する。
●部分浅耕一工程播種では、鋤床に播種するよう播種深度を調整する。

## ３　播種が梅雨明けになる場合の注意点

●梅雨明けすると強い日差しで土壌水分が急激に失われ、出芽障害をおこします。播種直前まで耕起せず、播種時の播種深度は深めにし、しっかり鎮圧する。
●天気予報でしばらく降雨がない場合は、出芽を確認後に本暗渠の栓を閉めて乾燥害を防ぐ。

以上